

阿蘇くじゅう国立公園

長者原ビジターセンター

平成 26 年度 活動報告



くじゅう地区管理運営協議会

目次

1. 長者原ビジターセンター利用状況	2
(1) 入館者数	
(2) ハイビジョン映像上映回数	
2. 長者原ビジターセンター運營業務	4
(1) 利用案内と展示	
①常設展示	
②企画展示	
(2) 自然ふれあい行事の実施	
①自然観察会	
②自然解説員（インタープリター）利用事業	
③各種イベント	
3. 施設管理業務	14
(1) 清掃業務	
①日常清掃	
②特別清掃	
(2) 園地管理業務	
4. 自然環境保全活動・調査	15
(1) 自然環境保全活動	
(2) モニタリングサイト 1000 里地調査	
5. 環境教育活動	16
(1) 飯田高原お宝クイズ	
(2) 飯田小学校親子レク	
(3) 飯田高原お宝探検隊との活動	
6. 広報活動	17
(1) メディア関係	
(2) 長者原ビジターセンターブログ	
(3) 長者原ビジターセンターフェイスブック	
(4) 長者原だよりの発行	
7. 職員研修実績	23
(1) 技能研修	
(2) 視察研修	
8. 新聞掲載記事	24
9. その他	29

1. 長者原ビジターセンター利用状況

(1) 入館者数

- ・平成25年度の来館者数は、123,755人であった（前年度比：約7.6%増）。
- ・入館者数カウンター設置（平成21年度）以降、過去最高入館者数を達成。
- ・昨年度は試験的に7～8月の開館時間の延長（16：00閉館⇒17：00閉館の1時間延長）を実施したが、今年度は、開館時間延長の期間を5～10月に拡大した。
- ・来館者増につながった理由としては、新規イベント「サロン de くじゅう」の開催や、企画展示「クイズスタンプラリー」の開始、ハンズオン展示の新設（「森のかおり」コーナーや「ハンズオン」コーナー）、既存展示の充実（登山コーナーへのマネキン設置、エコフィールドマップの内容充実）など、利用者がより楽しめる施設を心がけたことが要因と考えられる。来館者が減少した10月は、台風が多かったこと、また2月は、記録的な大雪による影響が要因と考えられる。
- ・自然解説員利用事業の継続的な実施も、来館者増につながっていると考えられる。

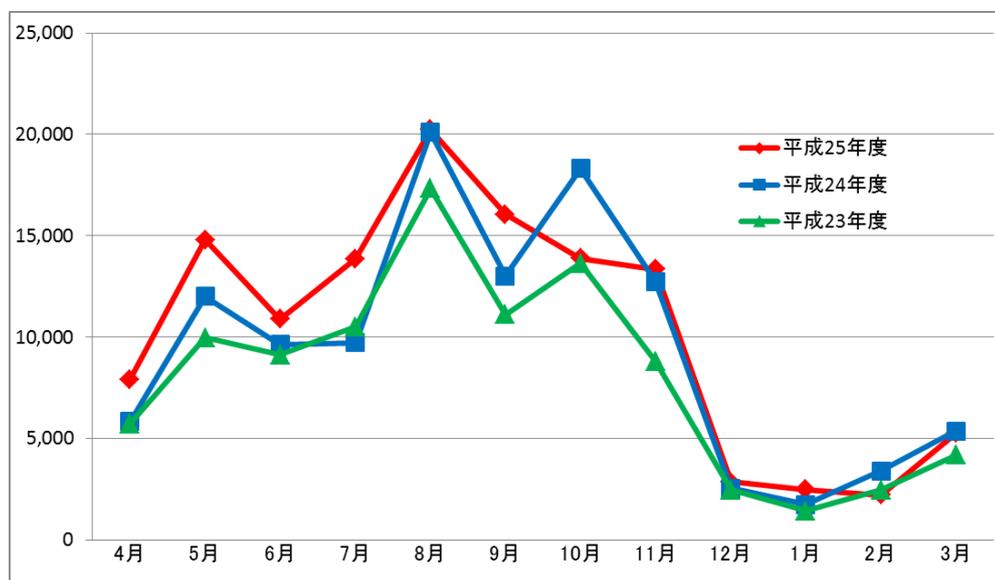


館内利用の様子

表1. 来館者数一覧表（平成23～25年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成25年度	7,913	14,802	10,875	13,866	20,228	16,051	13,881	13,353	2,859	2,482	2,196	5,249	123,755
平成24年度	5,823	12,012	9,632	9,710	20,108	13,012	18,305	12,745	2,537	1,739	3,393	5,361	114,377
平成23年度	5,717	9,968	9,123	10,507	17,330	11,104	13,641	8,811	2,457	1,418	2,448	4,179	96,703

図1. 来館者数推移（平成23～25年度）



(2) ハイビジョン映像上映回数

- ・平成25年度ハイビジョン映像上映回数は693回（前年度比約21%減）、延べ人数6,910人であった（前年度比：約17%減）。
- ・来館者増に対し、ハイビジョン映像利用が減少していることから、館内イベントや展示の充実と合わせて、ハイビジョン映像へつなげる取り組みが今後必要と考えられる。
- ・「くじゅう彩りの大地」「生命めぐる湿原」のハイビジョン映像の他、大型モニターでの「生命はぐくむ炎～春の野焼きとくじゅうの草原」の映像についても、多言語字幕付き上映が可能なので、外国人来館者に対して、利用を促進するために、多言語字幕付き上映可能案内を設置した。



ハイビジョン映像上映の様子

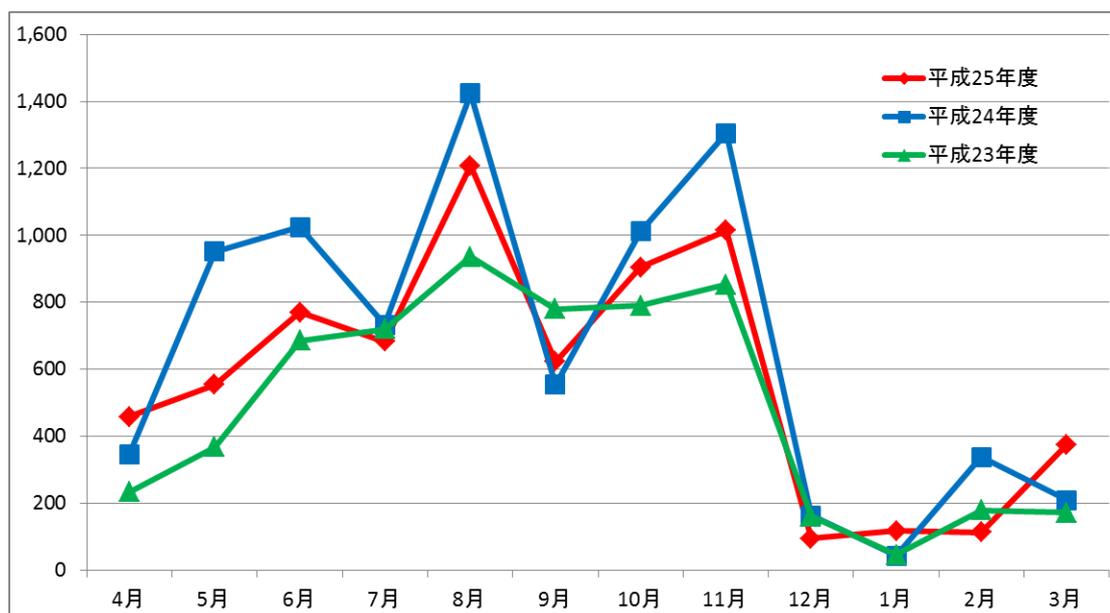


映像の多言語字幕付き上映可能案内の例

表2. ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成23～25年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成25年度	457	554	770	682	1,207	622	904	1,015	94	117	113	375	6,910
平成24年度	344	951	1,025	733	1,424	554	1,011	1,305	162	43	337	208	8,097
平成23年度	233	368	685	720	936	780	789	852	160	45	179	171	5,918

図2. ハイビジョン映像上映人数推移（平成23年度～25年度）



2. 長者原ビジターセンター運營業務

(1) 利用案内と展示

①常設展示

延べ 121 回展示更新（月に 10 回程度）

展示内容	展示箇所	頻度
旬の見どころ紹介ボード	2階 入口	月1回
自然観察会紹介	2階 入口付近	年4回
登山の服装とキャンプ紹介	2階 入口付近	月1回
九重の自然写真館	2階 受付前	月2回
国立公園情報・登山道情報	2階 受付前	月1回
森のかおり(新設)	2階 映写室入口付近	年4回
ハンズオンコーナー(新設)	2階 受付前	年4回
ビジターセンターTV	1階 入口付近	月1回
くじゅうの植物図録	1階 パネル設置	月2回
エコフィールドマップ	1階 入口付近	週1回
くじゅうの自然を支える活動	階段 ボード	月1回
モニタリングサイト1000調査雄紹介	階段 ボード	月1回

a) ビジターセンター2階

ビジターセンター2階はメイン入口となっており、自然に関する情報（旬の見どころや国立公園・登山道情報）や、展望を利用した休憩スペースを設置している。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナー展示や、周辺地域の情報などを展示している。



旬の見どころ紹介ボード



自然観察会紹介等



九重の自然写真館



受付カウンター



登山の服装とキャンプ紹介

くじゅう連山登山に必要な服装・登山道具などの展示、及びテント・寝袋等の体験コーナー。



国立公園情報・登山道情報

環境省アクティブ・レンジャーによる国立公園の魅力紹介や、最新の登山道情報を展示。



おでかけマップ

国立公園周辺の見どころや周辺の道路情報を展示。また、南阿蘇 VC の案内も併せて展示。



展望コーナー

「くじゅう」に関する書籍や雑誌、登山専門誌などの閲覧および休憩コーナー。



森のかおり

香りを持つ木についての解説と併せて、様々な木のアロマオイルを壁に展示し、木の香りを体験できるコーナー。



ハンズオンコーナー

実物にさわって知ることができるハンズオンコーナー。動物の剥製を展示した。

b) ビジターセンター1階

1階は、タデ原湿原やくじゅう連山登山道への出入り口となっているため、タデ原湿原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示。



くじゅう連山ジオラマ周辺



くじゅうの植物図録
(図録作成：九重の自然を守る会)



エコフィールドマップ

今見られる景色や動植物などを、楽しみ方の幅を広げる手づくりの解説付きで紹介。



子どもコーナー

くじゅうの山の高さを楽しく学べる山の高さの展示の他、年輪を数えたり、自然関係の絵本を設置している。

c) 階段

タデ原湿原入口やトイレ利用のための通過点となっており、多くの来館者が自然と目にする場所であるため、自然保護などの「くじゅう」で行われている活動を知ってもらう内容を展示。



くじゅうの自然を支える活動

登山道整備や外来種駆除活動など、くじゅう連山で行われた自然保護活動を紹介します。



モニタリングサイト1000

九重の自然を守る会がタデ原で行っている植物モニタリング調査の様子を紹介。調査結果や、参加者の声も展示。

②企画展示

a) 「ピンクの山?! ミヤマキリシマを知ろう」

実施期間：平成 26 年 4 月～平成 26 年 6 月



くじゅうを代表する景観であるミヤマキリシマは、どんな植物なのか、「キレイ」だけでなく、大切にくじゅうの生きものとしての、ミヤマキリシマを知ってもらう展示。さまざまな大きさでの解説パネル展示にあわせて、登山の注意事項の普及啓発の展示や、参加型展示の実験も兼ねた、来館者が切り絵でミヤマキリシマを作成し、自然環境を再生するという体験コーナーを設置した。切り絵コーナーでは、子どもから高齢者まで、幅広く利用がみられ、特に家族連れで楽しむ姿が多くみられた。

b) 「くじゅうの水辺の生きもの」

実施期間：平成 26 年 1 月 4 日～平成 26 年 3 月 31 日



くじゅうには、多くの川・湿地・田んぼが存在し、その水辺には多種多様な生きものが棲み、その生きものが育む水辺の環境が、豊かな自然をつくり出していることを知ってもらうための展示。九重ふるさと自然学校との共同制作の展示であり、昆虫の専門家である自然学校のスタッフが、写真や昆虫の生態・マメ知識、環境の解説を作成し、VC でパネルをめくって学べるハンズオン型展示や、ミヤマキリシマ展示の際に好評であった、切り絵の参加型展示コーナーを設けた。自然学校の専門的なスタッフと共同で作成することにより、より深くわかりやすい展示ができた。九重ふるさと自然学校の依頼により、「生物多様性セミナー in 大分」の展示ブースで、一日展示されたことにより、より多くの人に見てもらうことができた。

c) 「くじゅうの80年、そして未来へ」

実施期間：平成26年10月～平成26年12月



今年、阿蘇くじゅう国立公園が指定80周年を迎えたことから、くじゅうの昔の写真、出来事の解説や当時の新聞記事、100周年に向けたメッセージ作成・掲示コーナーを設けた展示。入口側の展示パネルには、タデ原散策に来た人でも簡単に楽しめるよう、2種類のクイズ式ハンズオン展示を行った。中面には、6つのテーマにわけ、簡単なコラムとともに、新聞記事や写真を展示し、それらの出来事を踏まえた上で、100周年のメッセージを書いてもらうスペースを設けた。幅広くの年代の利用が見られた。

③利用案内と展示の国際化

(2) 自然ふれあい行事の実施

①自然観察会

- ・平成 26 年度の自然観察会開催回数は 58 回（前年度比：14%減）、参加者数は、延べ 953 人。（前年度比：約 37%減）
- ・九重の自然を守る会の会員や、くじゅう地区パークボランティアがボランティアガイドを行う。
- ・今年は、8 月や 10 月の行楽シーズンに天候不良が続き、参加者が減少した。また、学校単位での申し込みが年々減少傾向にあるため、積極的な広報が今後の課題である。



自然観察会の様子

表 3. 自然観察会参加者数一覧（平成 24～26 年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
平成26年度	7	184	64	60	90	106	34	140	0	2	2	57	746
平成25年度	35	72	25	136	241	245	149	39	2	2	0	7	953
平成24年度	30	283	70	161	412	228	117	76	118	1	11	13	1,520

図 3. 自然観察会参加者数推移（平成 24 ～ 26 年度）

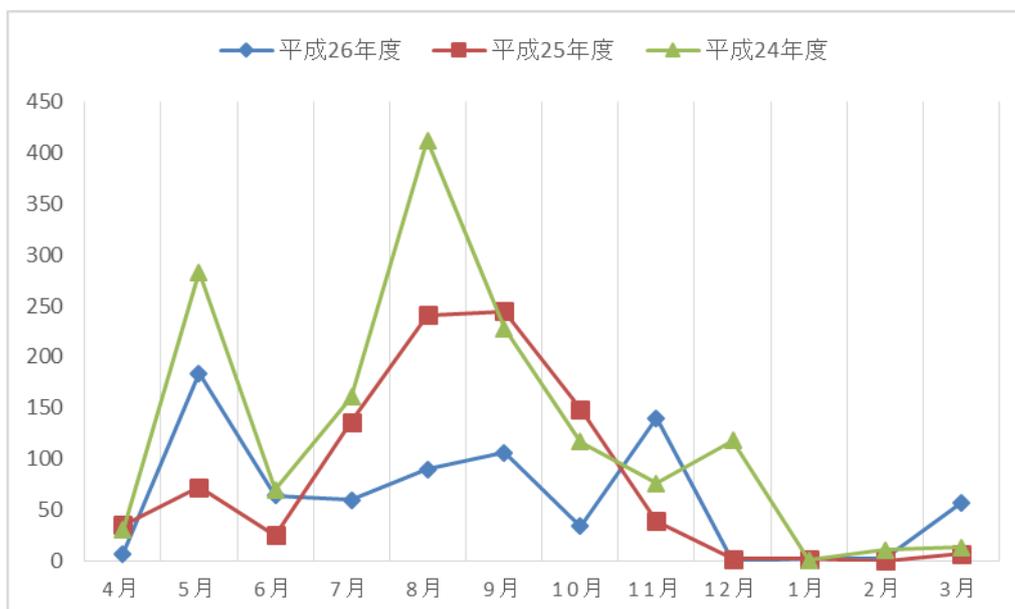


表 4. 平成 25 年度自然観察会開催一覧

開催日	概要	参加者数	
4月27日	日	定例	4
4月29日	火	定例	3
5月3日	土	定例	19
5月4日	日	定例	11
5月5日	月	定例	3
5月6日	火	定例	3
5月9日	金	北山田中学校自然観察会	26
5月11日	日	定例	6
5月18日	日	定例	2
5月25日	日	定例	9
5月29日	木	久留米市金丸小学校自然観察会	105
6月1日	日	定例	14
6月7日	土	柳川健康ハイキング自然観察会	20
6月8日	日	定例	13
6月15日	日	定例	12
6月29日	日	定例	5
7月20日	日	定例	16
7月27日	日	定例	2
7月27日	日	柏陵高校自然観察会	42
8月5日	火	自然を守る会 観察会	20
8月7日	木	大分大学サマーキャンプ 自然観察会	40
8月16日	土	定例	2
8月17日	日	定例	6
8月23日	土	定例	6
8月24日	日	定例	10
8月31日	日	定例	6
9月7日	日	定例	12
9月14日	日	定例	14
9月15日	月	定例	3
9月19日	金	観察会	20
9月21日	日	定例	14
9月23日	火	定例	3
9月28日	日	定例	10
9月28日	日	福岡女子大学 自然観察会	30
10月15日	水	日田市若宮公民館 自然観察会	14
10月19日	日	定例	12
10月26日	日	定例	8
11月2日	日	定例	4
11月3日	月	定例	23
11月5日	水	若葉よろず塾野外研修 自然観察会	45
11月9日	日	大鶴公民館 自然観察会	27
11月16日	日	定例	8
11月16日	日	大分ガールスカウト自然観察会	25
11月30日	日	定例	8
1月25日	日	定例	2
2月22日	日	定例	2
3月8日	日	定例	1
3月15日	日	大野城市中学生リーダーズクラブ 自然観察会	35
3月21日	日	定例	2
3月22日	日	定例	6
3月29日	日	定例	13

②自然解説員（インタープリター）利用事業

- ・九重の自然を守る会と共催で行う「自然観察会」とは別に、ビジターセンター職員（自然解説員）が随時、阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域に関する自然解説事業^(※)を行なっている。
- ・平成 26 年度の自然解説事業回数は 14 回（前年度比：3 回減）、利用者数は、延べ 297 人。
- ・今年度は小中学校の受け入れが少なく、大学や行政関係の受け入れが多かったが、全体的には減少傾向にある。

(※)自然解説事業は、館内における国立公園についてのレクチャーと、野外レクチャーの組み合わせにより実施。



大分学研究会視察研修



自治体フォーラム視察研修



環境省インターン生受け入れ



東飯田公民館長者原探検



韓国自然の友研究所視察研修



全国市町村会政務調査会行政委員会視察研修

表 5. 平成 26 年度自然解説員利用事業一覧

開催日		概要	参加者数
4月20日	日	大分学研究会 視察研修	20
5月13日	火	日田市大山中学校自然体験学習	25
5月25日	日	自治体フォーラム 視察研修	15
7月17日	木	環境省インターン生受け入れ	1
8月7日	木	大分大学サマーキャンプ 講演会・自然観察会	40
8月10日	日	小倉高校 自然解説研修	25
8月27日	火	東飯田公民館 長者原探検	13
9月4日	木	大分県ディステーションキャンペーン	40
9月19日	金	荒尾市役場環境保全課 視察研修	40
9月28日	日	福岡女子大学 講演会・自然観察会	30
10月22日	水	韓国自然の友研究所 視察研修	19
11月22日	土	佐賀農業高校韓国留学生 視察研修	7
11月28日	金	全国市町村会政務調査会行政委員会 視察	20
3月5日	木	那覇市環境担当職員 視察	2

【新規事業】

タデ原ミニガイドウォーク

・VC 職員が、タデ原の魅力をクイズ形式で出題しながら、タデ原を一緒にまわる、30 分間のミニガイドウォークで、毎日、午前 11 : 00 ~ 11 : 30 と 14 : 00 ~ 14 : 30 の 2 回開催し、参加費として 100 円徴収している。

- ・平成 26 年度のミニガイドウォークの利用者は、延べ 149 名。
- ・今後、広報の方法や、多言語での対応を可能にすることで、参加者の増加を目指したい。



ミニガイドウォークの様子

③各種イベント

a) サロン de くじゅう

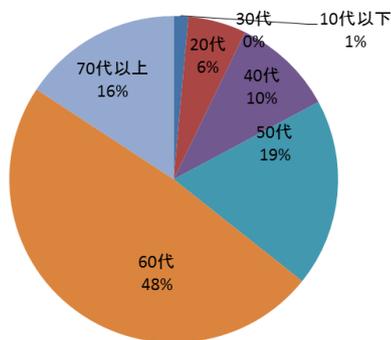
開催日時：毎月第4日曜日 13:30～15:00

場所：長者原ビジターセンター1階オープンスペース

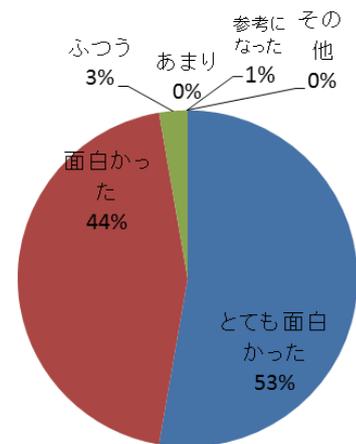
くじゅうの自然に関わる様々な分野の講師を招き、館内のオープンスペースで講演を行った。講演回数は6回、参加者数は延べ115名であった。参加者には、コアな利用者のほか、偶然立ち寄った観光客等も足を止め、参加する様子が見られた。講演内容に好評が得られていることから、今後も継続して実施したい。



●アンケート集計結果



参加者の年齢層



参加者の感想



サロン de くじゅうの様子

表6. 「サロン de くじゅう」開催内容一覧

開催日	演目	講演者	参加者数
5月25日	くじゅう草原の歴史	長者原ビジターセンター 種村英大	10
6月22日	くじゅうの自然の中で、生命を担う	イーグルファーム 鷹頭将治	15
7月27日	「国立公園くじゅう」を振り返る～その仕組みと成り立ち～	環境省くじゅう自然保護官事務所 自然保護官 新田一仁	28
8月24日	お天気からみる「くじゅう」のやさしさ・怖さ～くじゅうの山岳気象～	気象予報士 花宮廣務	22
9月28日	九重の昆虫	九重ふるさと自然学校 朝倉和紀	20
10月26日	くじゅうの哺乳類	おおいた生物談話会 森田祐介	20

b) 入館者 100 万人突破記念セレモニー

開催日時：平成 27 年 1 月 28 日（水）

場所：長者原ビジターセンター2 階展望スペース

長者原ビジターセンターが平成 9 年にリニューアルオープンしてからの入館者が 100 万人を突破したことから、記念セレモニーを行った。当初、2 階入口前の屋外スペースでのセレモニーを予定していたが、悪天候のため館内で実施した。セレモニーでは、100 万人目の来館者となった女性が、くじゅう地区管理運営協議会会長の坂本和昭九重町長と、くす玉開きを行い、100 万人前後賞の方々も含めて、セレモニー協賛団体等から記念品が贈られた。



セレモニーの様子

c) トイレ de 写真館コンテスト

募集期間：平成 26 年 5 月 24 日～平成 26 年 8 月 15 日

展示期間：平成 25 年 10 月 1 日～現在

昨年度からトイレ展示「トイレ de 写真館」を開始し、くじゅう連山の美しい風景等の写真を公衆トイレに展示することで、トイレ利用者の意識向上を図っている。今年度は展示写真の公募コンテストを行った。応募作品は 43 点あり、審査の結果 3 点の入選作品を選出、写真を大きく引き伸ばして展示した。また、他の優秀作品 6 点も加えて展示した。入選者には、ビジターセンターから記念品を贈呈した。



トイレ de 写真館展示の様子



トイレ de 写真館外観

d) 阿蘇くじゅう国立公園指定 80 周年記念イベント

平成 26 年 12 月に阿蘇くじゅう国立公園が指定 80 周年を迎えることから、阿蘇くじゅう国立公園指定 80 周年を広く一般に周知し、国立公園の歴史を振り返ると共に、多くの人の自然に対する興味関心を高め、次世代の自然保護の担い手を育成することを目的とした記念イベント、「くじゅうフェス in 長者原」を開催した。このイベントは、協議会会員だけでなく地元や地域住民にも広く声をかけ、くじゅうフェス in 長者原実行委員会を結成し、イベント運営を行った。

開催日時：平成 26 年 10 月 4 日（土） 11：00～16：00

場所：長者原園地広場

イベントは、式典会場をそのまま利用したステージイベントや、環境保護団体等による体験ブース、自然に配慮したマーケットブースの設置、各観光協会等による、協賛品の提供や餅つき等のサイドイベントで構成された。

阿蘇くじゅう国立公園指定 80 周年記念イベント



参加者：約 1000 名

参加費：実費

参加協力団体

ステージ・サイドイベント	体験	マーケット
<ul style="list-style-type: none"> ・ FM 大分パーソナリティークボタヨシフミ(司会) ・ 別府市、由布市、九重町、竹田市のゆるキャラ、キャンペーンレディ等 ・ 大分県立玖珠農業高校 ・ 九重町立野上小学校 ・ コンゲアング ・ BEN☆KAN ・ 富永裕輔 ・ 九重・飯田高原観光協会 ・ 筋湯温泉観光協会 ・ 釜ノ口温泉観光協会 ・ 九重町観光協会 ・ 龍門の滝観光協会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境省九州地方環境事務所 ・ 大分県生活環境部生活環境企画課 ・ 大分県立社会教育総合センター九重青少年の家 ・ 九重の自然を守る会 ・ 久恒森林(株)(レストハウスやまなみ) ・ 九重ふるさと自然学校 ・ くじゅうネイチャーガイドクラブ ・ 大分大学生態学研究室(永野研究室) ・ 北九州市立大学原口研究室 ・ 南阿蘇ビジターセンター/休暇村阿蘇 ・ 公益財団法人人材育成ゆふいん財団 ・ 九州自然歩道フォーラム ・ grow 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Yu-ki 庵 ・ Select Shop Breath ・ SlowCafe 森の魔女 ・ こんがりはうす ・ おもちや屋さん ・ 大分県立玖珠農業高校 ・ 畑のレストランひだまり ・ tane ・ FAR EAST HORIZON ・ ろばのもと ・ すみっこ倶楽部 ・ ほっぺショップ ・ RICE and COFFEE ・ ひなたぼっこ Weed ・ やまなみ牧場 ・ 喫茶椿

(順不同)

式典・イベントの様子



記念式典の様子



会場である、長者原園地の様子



ステージでは、発表やライブなどが行われた。



体験ブースは、親子連れで楽しむ姿が多く見られた。



オーガニックマーケットでは、売る人も、買う人も笑顔になった。

e) 牧ノ戸峠登山ミニレクチャー

- ・公園利用者への適切な指導の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている、牧ノ戸峠登山口において、登山者に対するマナーの普及啓発を行うことを目的とした。
- ・実施日程は、GW 連休、ミヤマキリシマ繁忙期、紅葉繁忙期の土・日・祝日で行い、時間は7:30~9:30とし、雨天中止等もあり、延べ9回行った。
- ・レクチャーは、VC 職員だけではなく、環境省、長者原駐在所、森林管理署のグリーンサポートスタッフの協力があり、スタッフは4~7名であった。
- ・服装点検、持ち物確認、登山届の提出、登山道の歩き方、ゴミの持ち帰り、下山時刻の確認、山のトイレの利用方法などの呼びかけだけではなく、くじゅうの見どころの写真パネル、準備体操のパネル、正しい服装をしたマネキンを設置した。
- ・レクチャーを行うことで、登山届の提出率が上がった。



ミニレクチャーの様子

表 6. 牧ノ戸峠登山口での登山 届提出数（長者原駐在所提

集計期間	平成25年	平成26年	前年比
4月26日~5月25日	336	695	206%
5月26日~6月25日	281	909	323%

f) リニューアルオープン式典

開催日時：平成 27 年 3 月 28 日(土) 10:00~12:00

- ・環境省主催の、長者原 VC リニューアルオープン式典の運営に協力した。
- ・式典のあと、展示解説を行い、その後自然観察会を実施した。
- ・式典参加者は約 70 名、自然観察会参加者は約 30 名であった。



式典の様子



展示解説の様子



自然観察会の様子

3. 施設管理業務

(1) 清掃業務

① 日常清掃

- ・ビジターセンター館内は、閉館後にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃を毎日実施。
- ・公衆トイレについては、職員による日常清掃をより強化して行うとともに、昨年に引き続きトイレ清掃ボランティア（基本的に金・土・日・月・祝日の週4回程度）を入れ、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。また、消臭剤を各便器に設置するなど、悪臭の改善に努めた。

(公衆トイレ清掃頻度：トイレ清掃ボランティア（朝）+職員による日常清掃=1日3~6回)



館内清掃の様子



公衆トイレ清掃の様子

② 特別清掃

- ・ビジターセンター館内、公衆トイレ共に、年1回、清掃業者を実施した。
- ビジターセンター館内：カーペットクリーニング、ワックスがけ、窓清掃等
公衆トイレ：便器のやすりがけ、スケールの除去



公衆トイレ特別清掃の様子



清掃後の便器

(2) 園地管理業務

- ・長者原園地においては、ゴミ拾い等清掃の他、芝刈り・草刈り業務を実施。常に美しい芝生広場が保たれるよう、園地内芝生広場の維持管理を行った。
- ・駐車場の植木について、剪定を行った。また、公衆トイレ裏および駐車場看板周辺の繁茂した草木について、ゴミ放棄が懸念されていたため除伐を行った。



園地管理の様子

4. 自然環境保全活動・調査

(1) 自然環境保全活動

①ミヤマキリシマ保全活動

- ・日本森林林業振興会からの助成事業として、レクリエーションの森（くじゅう山風景林）の整備の一環で、扇ヶ鼻周辺のミヤマキリシマ群落保護のための除伐作業や、男池園地遊歩道沿いの、樹名板の設置を行った。



ミヤマキリシマ保全活動の様子

②その他環境保全活動

- ・飯田高原野焼き実行委員会、環境省くじゅう自然保護官事務所、九重の自然を守る会、九重・飯田高原観光協会等に随時協力し、野焼き活動、外来種駆除活動、登山道保全整備活動等を行なった。



三井住友海上オオハンゴンソウ駆除活動の様子



玖珠農業高校登山道整備

表 7. 平成 26 年度自然環境保全活動一覧

実施日		概要
4月10日	木	坊ガツル野焼き
4月12日	土	タデ原・大將軍野焼き
4月15日	火	タデ原野焼きの焼け残り処理
4月16日	水	タデ原野焼きの焼け残り処理
4月17日	木	タデ原野焼きの焼け残り処理
4月23日	水	ミヤマキリシマ保護活動(協議会主催 林業振興会補助事業)
4月24日	木	タデ原野焼きの焼け残り処理
4月26日	土	泉水山野焼き
5月14日	水	くじゅう山風景林ミヤマキリシマ保全活動
5月15日	木	ミヤマキリシマ保全活動使用備品の片づけ
5月17日	土	牧ノ戸登山道整備・清掃(九重主催)
5月31日	土	山開き前日作業(草刈り・ゴミ拾い)

6月29日	日	ヒゴタイ保護活動(パークボランティア)
7月6日	日	硫黄山道路沿いのオオハンゴンソウ刈取作業(守る会)
7月18日	金	オオハンゴンソウ駆除活動
8月3日	日	クリーン作戦(守る会)
9月6日	土	オオハンゴンソウ花摘み・試験区状況調査
9月21日	日	ラムサールサポーターズ タデ原オオハンゴンソウ駆除
10月11日	土	くじゅうの自然に感謝する日 登山道整備
10月19日	日	ヒゴタイ保護活動(パークボランティア)
11月7日	金	玖珠農高との登山道整備
11月16日	日	タデ原輪地切り
11月30日	日	平治岳一人一石運動

(2) モニタリングサイト 1000 里地調査

- 平成 26 年度より、環境省の「モニタリングサイト 1000 里地調査植物相」にタデ原を登録した（調査主体：九重の自然を守る会）。平成 26 年度の調査実施回数は 9 回（3～11 月に毎月 1 回実施）、今後 5 年間継続して調査を行う。
- 調査の事務局はビジターセンター職員が行い、調査の前後には毎回、職員によるレクチャーを行った。また、調査の様子を館内に展示することで、一般利用者にも活動内容を知ってもらうように努めた。
- タデ原調査地でのモニタリング種数は 217 種^(※)であり、そのうち環境省レッドデータ掲載種は 11 種、大分県レッドデータ掲載種は 30 種であった。（※）イネ科、カヤツリグサ科をのぞく種子植物種数



調査の様子



職員によるレクチャーの様子

5. 環境教育活動

- (1) 飯田高原お宝探検隊との活動（詳細は「平成 26 年度飯田高原お宝探検隊活動報告書」を参照）



「泉水山ろくでデイキャンプ」の様子



「もぐらうちわは～中村下！」の様子

開催日		概要
5月10日	土	泉水山ろくでデイキャンプ！
6月16日	月	大豆をみんなで植えよう！
7月12日	土	カシワの葉っぱでカシワもちづくり
8月4日	月	飯田の川で生きものさがし！
10月8日	水	あげたへえ～さげたへえ～日向下編
11月11日	火	大豆のしゅうかく♪
12月25日	木	もぐらうちづくりinクリスマス♪
1月10日	土	もぐらうちわは～中村下！
2月21日	土	石うすまわして おとうふづくり♪

6. 広報活動

(1) メディア関係

平成 25 年度出演回数：10 回

対応日	内容
5月27日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
7月22日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
8月23日	大分合同新聞取材インタビュー
9月23日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
10月16日	OBSラジオ収録
11月10日	OBS大分放送「新九州遺産」モニタリングサイト1000の様子取材
11月25日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演
12月17日	西日本新聞取材インタビュー
2月5日	西日本新聞同行取材「暮雨の滝」
2月17日	FM大分「もっとあなたとカラフルパレット」出演

(2) 長者原ビジターセンター ブログ

平成 25 年度更新回数：24 回

更新日	内容
4月1日	タデ原の野焼きが行われました！
4月6日	新コーナー「森のかおり」を始めました！
4月26日	「サロン de くじゅう」開講します！
4月30日	「くじゅうの森をたんけん！クイズスタンプラリー」を始めました！
6月12日	梅雨時期の登山の注意！
6月20日	タデ原で「モニタリングサイト1000里地調査」を開始しました！
7月11日	生き物でにぎわう夏のタデ原
7月19日	「夏休み自由研究 タデ原ポケット図鑑を作ろう！」開催のお知らせ
7月19日	「トイレde写真館コンテスト」開催のお知らせ
7月26日	祝！入館者80万人達成！！
8月14日	ヒゴタイが見ごろです♪
10月5日	「くじゅうから誕生！子ども樹木博士になろう！」開催のお知らせ
10月11日	イエローストーン国立公園がくじゅうにやってくる！！
10月14日	トイレde写真館結果発表～♪
11月1日	タデ原のススキでフクロウ作り！
11月9日	【再募集♪】フクロウから見える森のいきもの
11月18日	フクロウから見える森のいきもの
11月23日	講演会「自然保護と地域経済とのかかわり」～アメリカ・イエローストーン国立公園の事例から～ 報告
12月18日	本日、大雪！
12月28日	年末年始休館のお知らせ
1月30日	タデ原の移ろい'13-'14！
2月22日	今年は大雪！
3月1日	長者原ビジターセンター新規職員採用のお知らせ
3月25日	春のきざし♪

ヒゴタイが豊かです。

こんにちは、秋です。

ただいまタチ原では、ヒゴタイの花がとってもきれいに咲いています！！







きれいでずんずん～*
きれいな青紫色は、今の緑の濃い草原の中で、とても映えます。
ヒゴタイは、キク科の多年草。小さな花がたぐん溜まって、まん丸のボールのような形になります。
つぼみをとまは開るとぐらぐらぐらぐら、トゲトゲしていますが、ひとつひとつの花が開花すると、ふんわり、やわらかくなります。花は上から咲いていくので、映る時は数枚の写真のように、顔からまがまがでいるようにして撮ります。
全開咲きやろうと草むらや草のうらにきれいな花が咲き出します。現在は、たぐんヒゴタイが来々と咲いているので、全開咲きそろってきれいな花畑になるのも、映る地味の色のもは状態や、花の終わりの時期のぼかすのがいい状態のものがある、なかなか面白いです。

このヒゴタイは、阿蘇・くじゆを代表する、山地の草原の植物ですが、草原の減少とともに生育地が減少し、現在は自主生している場所がごく一部に限られています。この時期、くじゆにお越しの際は、タチ原のヒゴタイをぜひ見てみて下さいね(9月中旬まで見られます！)

(※ヒゴタイは環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類に指定される希少な植物です。また、大分県では大分県希少な野生動物の保護に関する条例にて撮影可採取が禁止されています。)

さて、もう一つ美しい花をご紹介します！



今年初めてこの花を見たのですが、とても感動しました...!!
ちなみにこのオオトキリは、午前～正午頃に花を咲かせていませんでした。
午後3時ごろに咲き始めるようで、タチ原にはこの花の開花を待っている方もいらっしゃるみたいです。(さらに、花が閉じるのを待っている方もいらっしゃいました...!!)

夏は夕方になると、ざっと涼しい雨が降ることがありますが、雨に濡れたあとの植物は一段ときれに見えるのもおもしろいかな。



オオトキリ(ユリ科)
タチ原ではこれから、咲くの花の種類が多くなります。ぜひ、遊びに来て下さいね



↑ワシモコウ(バラ科・写真)やシラネアザミ(ユキノシタ科)も開花しました！

ブログ掲載の様子

(3) 長者原ビジターセンター フェイスブック

平成 25 年度更新回数：103 回

- ・ページの購読者（「いいね！」の数）は 835 人（昨年度より 537 人増）。購読者数は、全国のビジターセンターのフェイスブックページの中でトップクラス。最新の自然情報をリアルタイムに提供するように努めたことにより、購読者が大幅に増加した。



The screenshot shows three Facebook posts from the Aso-Kuju National Park Visitor Center. The top post is dated October 29, 2013, and features a large photo of a mountain peak with autumn foliage. The middle post is dated October 31, 2013, and includes a photo of several chickens. The bottom post is dated October 21, 2013, and features a photo of a mountain path with autumn foliage. Each post includes text in both Japanese and English, along with engagement metrics like 'likes' and 'comments'.

フェイスブック掲載の様子

7. 職員研修実績

(1) 第 497 回 NACS-J 自然観察指導員講習会・大分県

開催日時：平成 26 年 10 月 18 日(土)～19 日(日) 参加者：鳥越

概要：NACS-J 主催の自然観察指導員講習会に参加し、2 日にわたって、4 回の野外実習および 2 回の講義が行われた。



野外実習の様子



講義の様子

(2) 第 10 回全国草原サミット・シンポジウム

開催日時：平成 26 年 11 月 23 日(日)～24 日(月) 参加者：種村

概要：サミット・シンポジウムでは、全国の草原保全の取組の事例紹介が行われ、各地における草原の保全と活用例などを、学んだ。



サミット・シンポジウムの様子

(3) 九州地区 VC 管理運営従事職員情報連絡会議

開催日時：平成 27 年 1 月 26 日(月)～27 日(火) 参加者：種村・鳥越

概要：環境省九州地方環境事務所が主催で行われ、九州管内 7 つの VC から、代表職員 9 名が参加し、講演や意見交換、体験学習が行われた。



講演会の様子



体験学習の様子

(4) ESD・KODOMO ラムサール〈みやぎ大崎〉

開催日時：平成 27 年 1 月 31 日(金)～2 月 1 日(日) 参加者：種村

(5) 西海国立公園 九十九島 VC/九十九島水族館海きらら 視察研修

開催日時：平成 27 年 3 月 10 日(火)～11 日(水) 参加者：鳥越・山下

概要：九州管内ビジターセンターで入館者数第 1 位を誇る、九十九島ビジターセンターにおいて、当施設が精力的に行っている地域住民や研究者との協働型管理の仕組みや、来館者が直接楽しむことができる展示を中心に視察した。当日は、当センター職員が、施設見学だけでなく、自然観察会や講習、意見交換などの研修プログラムを組んでくれたため、充実した研修となった。今後も、他 VC に出向き、職員同士の交流を深め、連携がとれると良い。



視察研修の様子

8. 新聞掲載記事

九重町の牧ノ戸峠

登山口で「レクチャー」



マナーの向上などと呼び掛ける環境省長者原ビジターセンター長の種村英大氏（左）＝3日

マナーを守ろう！

九重町の環境省長者原ビジターセンターを運営するくじゅう地区管理運営協議会は3日、牧ノ戸峠登山口で登山客にマナー向上などと呼び掛ける「5分間ミニ登山レクチャー」を始めた。登山客が増えるゴールデンウィークに合わせて初めて企画した。6日まで。

同センターの種村英大センター長(32)が服装の注意点や山のトイレの利用方法などを説明。遭難に備えて

登山届を提出することの大切さを訴えた。

5分間の説明を聞いた登山客は早速、登山届に名前や住所を記入。新緑のくじゅう連山に入山した。

6日までの間、午前8時半から同10時まで開く。種村センター長は「くじゅう連山は登山初心者も多く、軽装登山やマナー違反、登山届の不提出が目立つ。ルールを守る大切さをしっかりと呼び掛けていきたい」と話した。

大分合同新聞（朝刊）

平成 26 年 5 月 4 日（日）

マナー守り安全登山を

長者原ビジターセンター

牧ノ戸峠で呼びかけ

九重

長者原ビジターセンターは7日、九重開き、くじゅう連山に向かう登山客に安全な登山やマナー順守を呼びかけた。

夏山シーズンに入ってミヤマキリシマも見頃を迎え、登山客が増えることから実施。この日は種村英大センター長ら4人が午前中の約2時間、登山に適切な服装や装備、登山届の大切さ、ルートの説明などを行った。種村センター長は「軽装での登山やゴミのポイ捨てなどマナー違反も少なくない。自然に優しい登山を呼びかけたい」と話す。「登山ミニレクチャー」は14、15日にも開催する。



九重町の牧ノ戸峠で登山客にマナー順守などを呼びかける長者原ビジターセンターの職員たち

西日本新聞

平成 26 年 6 月 10 日（火）

阿蘇くじゅう国立公園 登山届数、昨年の倍に



阿蘇くじゅう国立公園はことし12月4日、80周年を迎える。九重町の環境省長者原ビジターセンター長の種村英大さん(32)「顔写真」は「くじゅうには素晴らしい自然が残っていることをあらためてアピールできるように。一緒に環境保全に取り組む仲間を増やしたい」と話す。

種村さんは神奈川県出身。大学卒業後の2007年、農業研修で九重町の農家に身を寄せた。08年から3年間、環境省くじゅう自然保護官事務所のアクティブレンジャーとして勤務。「自然と共生する地元住民に引かれ、ここに永住したいと思った」

同センターは地元のかじゅう地区管理運営協議会が指定管理を受け運営。種村さんは11年にセンターの職員になり、12年4月からセンター長を務める。登山ブームにより経験の少ない登山者も訪れ、軽装備や登山届を提出しないケースが増えた。種村さんらはことしのゴールデンウィーク期間、牧ノ戸峠登山口でマナー向上を呼び掛ける「5分間ミニ登山レクチャー」を実施した。

同登山口の5月の登山届数は695件。昨年の336件を大きく上回った。「6月中旬まではミヤマキリシマが見頃。ルールを守りながら自然に親しんでほしい」と呼び掛けている。

次週(18日)は杵築新聞

大分合同新聞(朝刊)
平成26年6月11日(水)

九州横断道 別府-阿蘇開通50年



記念セレモニーで花束を受け取る滝口定義局長(左)ら=22日、九重町長者原ビジターセンター

ゆるキャラ 沿線PR

九州横断道の別府市から熊本県阿蘇市までの区間が今年で開通50年を迎え、大分、熊本両県の道路沿線の自治体と観光関係者らが22日、「アニバーサリーパレード」としてPRキャラバン隊を走らせた。

大分県の関係者は別府市の別府国際観光港を出発。熊本県側は阿蘇市からスタートし、九重町の環境省長者原ビジターセンターで合流した。

センターで記念セレモニーがあり、滝口定義局長西部の父・油屋熊八翁が1927年に九州観光構想として打ち出した。51年に別府市から道路改修を開始。有料の別府阿蘇道路として64年に開通し、94年に無料化された。

大分合同新聞(朝刊)
平成26年6月23日(月)

高原の花色づき初秋の装い



①ピンクの小さな花がいくつも咲き、可憐なシモンゲンソウ
②淡い紫色の花を下向きに咲かせるのが特徴のサイヨロシヤン



丸重
・飯田高原のタテ原
湿原では、ヒゴタイ
の花がしき、さわやかな
風に揺れている。9月にか
けて咲く野草も色づき始
め、高原は初秋の装いを見
せつある。
長者原センター
によると、猛暑だった昨年
に比べて一週間ほど遅れ
たが、ヒゴタイがりの色
の秋は深まっていく。

丸い花を見せている。ヒゴ
タイは絶滅危惧種に指定さ
れ県条例で無許可採取が禁
止されている。しかし毎年
花が摘み取られる被害が絶
えず、同センターは保護を
呼び掛ける。
同湿原ではシモンゲン
ウ、サイヨロシヤン、ウ
ドなどの花が咲き、訪れる
人を楽しませている。今後、
ワレモコウ、マツムシソウ
なども姿を見せ、次第に高
原の秋は深まっていく。



③白り色の花が草原の風に揺れるヒゴタイ。その姿に引き寄せられるようにハチが舞っていた
④三俣山などくじゅう連山を見上げるタテ原湿原。白いウドの花も静かに咲いていた

西日本新聞

平成 26 年 8 月 14 日 (木)



外来植物オオハongoン
参加者 21 日、九重町の

九重町のタテ原湿原

保険 外来植物を駆除

MS&ADインシュアラ
ンスグループ(本社・東京
都)の三井住友海上、あい
おいニッセイ同和損保は21
日、ラムサール条約に登録
されている九重町飯田高原
のタテ原湿原で外来植物の
駆除作業をした。
同グループは全国各地の
ラムサール条約登録湿地な
どで環境保全活動に取り組
んでいる。タテ原湿原での
活動は今回が初めて。
社の大分支店から計約
が参加。九重の自然を
会や環境省くじゅう自
護官事務所、九重ふる
自然学校の会員やスタ
参加者が根っこから引き
抜いて土を落とし、ポリ袋
に入れた。湿原では主に道
路沿いなどに外来植物が分
布しており、ヒゴタイやハ
メユリのような希少植物へ
の悪影響が懸念されてい
る。

大分合同新聞 (朝刊)

平成 26 年 9 月 22 日 (月)

登山届は必ず提出を

九重町で「ミニレクチャー」

九重町の環境省長者原ビジターセンターを運営するくじゅう地区管理運営協議会は3日、牧ノ戸峠登山口で登山客にマナー向上などを呼び掛ける「ミニ登山レクチャー」を実施した。同センターの種村英大センター長(32)や町職員、玖珠署員らが服装の注意点などを説明。遭難に備えて登山届を提出することの大切さを訴えた。登山客は登山届に名前や住所を記入。紅葉が見頃のくじゅう連山に次々と入山した。



種村英大センター長(右端)の説明を聞きながら登山届に記入

くじゅう山系の三俣山では10月15日、福岡県内の60代の無職女性が遭難。同16日朝に救助された。センタ

大分合同新聞(朝刊)
平成26年11月4日(火)

1はことしのゴールデンウィーク期間中に初めてミニ登山レクチャーを実施。今回で3回目。

九重町・長者原ビジターセンター

来場者100万人



坂本和昭町長(右)と100万人目の矢次ひかるさん(中央)、婚約者の樋口勇樹さん=28日、九重町田野

くじゅう連山の玄関口として登山客や観光客に利用されている九重町田野の「環境省長者原ビジターセンター」の来場者数が28日、100万人に到達した。センターが1997年7月に改築してから集計をスタートし、17年半で達成。ことし4月には展示施設のリニューアルも計画しており、くじゅうの自然環境を学ぶ拠点として発展を続けている。

くじゅう「学ぶ場」発展 年々、利用者が増加

100万人目は福岡県系 坂本和昭町長が「これから島市の経営コンサルタン」も未水くじゅうの自然を「愛してほしい」と歓迎。くす玉を割って祝った。と登山前にセンターを訪れ、矢次さんは4年前から月した。記念セレモニーがあり、に1、2回、くじゅう連山

(伊藤及仁)

大分合同新聞(朝刊)
平成27年1月29日(木)

雄大な風景写真に

長者原ビジターセンター

展示施設をリニューアル

くじゅう連山の玄関口として登山客や観光客に利用されている九重町田野の「環境省長者原ビジターセンター」が1997年7月の改築以来初めて展示施設のリニューアルをした。28日、記念式典が同センターであり、関係者らがくじゅうの自然環境を学ぶ拠点としてのさらなる発展を願った。

リニューアルの目玉は1・3・6階の巨大な布。片面、住高原から見た連山の写真階と下階の吹き抜け部分に平治岳から見たくじゅうが印刷されており、雄大な設置した幅4・5階、高さ連山、もう一方の面には久風景を築しめる。

リニューアルした施設を見学する参加者。28日午前、九重町田野の環境省長者原ビジターセンター



テープカットをする関係者ら

展示物は草原、森林、山岳、水辺などの項目ごとに整理。生物や植物の関わり合いを丁寧に説明している。外国人観光客の増加に伴い、英語、中国語、韓国語の説明も加えた。改修費は約8200万円。

記念式典で杉田高行環境省九州地方環境事務所統括自然保護企画官が「自然と触れ合う拠点としてこれまで以上に機能し、愛されてほしい」とあいさつ。同センターを運営するくじゅう地区管理運営協議会の坂本和昭会長（九重町長）が「自然環境を未来に引き継いでいくため、施設の発展に尽くしていきたい」と述べた。

同センターは66年、国内で4番目のビジターセンターとして開所。97年、タテ原温泉に隣接する形で施設を建て替えた。自然志向の高まりなどにより、年々来場者が増加し、2009年度の7万4千人から、13年度は12万3755人まで伸びている。（伊藤友仁）

大分合同新聞（朝刊）

平成 27 年 3 月 29 日(日)

9. その他

職員紹介

種村英大（たねむらえいだい）	業務責任者	センター長
村松優子（むらまつゆうこ）	自然解説員	展示・ふれあい担当
時松薫路（ときまつくんじ）	自然解説員	園地・施設担当

地域の概要

長者原ビジターセンターは、阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域に存在し、1700 m 級の山々が連なり「九州の屋根」と呼ばれる、くじゅう連山北西部に位置する。通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿い、大分県九重町長者原地区にセンターがあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの裏側には、ラムサール条約登録湿地のタデ原湿原が広がり、設置された木道からは、四季折々の自然を肌で感じながら、山野草を楽しむことができる。

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、九重の自然を守る会、大分県立社会教育総合センター九重青少年の家、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、筍ノ口温泉観光協会、久住高原観光協会、おおいた観光サービス、学校法人福岡大学、長者原ヘルスセンター、オーベルジュ・コスモス、レストハウスやまなみ、九重西鉄ホテル花山酔、みやま商店、寒の地獄旅館、九重星生ホテル、ホテルやまなみ荘、九重観光ホテル、九重ヒュッテ、エルランチョグランデ、牧ノ戸売店、飯田高原ドライブイン（飯田農協）、法華院温泉山荘、くじゅう倶楽部、九重森林公園、橋本建設、ア・マ・ファソン、界 ASO、飯田高原デザイン会議、九重ふるさと自然学校、久住高原みちくさ案内人倶楽部（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

朝日台レストハウス、九州電力八丁原発電所、九州林産林業部、福岡県中学校体育連盟、福岡県高等学校体育連盟（敬称略・順不同）

阿蘇くじゅう国立公園 長者原ビジターセンター

【住 所】 〒879-4911

大分県玖珠郡九重町大字田野 255-33

【電 話】 0973-79-2154

【ホームページ】 <http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/>

【入館料】 無料

【開館時間】 9:00～16:00(平成25年5～10月は9:00～17:00)

【発 行】 平成26年3月31日

運営管理業務者：くじゅう地区管理運営協議会